

文化

(文化財、文化関係施設)

文

化

1	概要	57
2	文化財とその保護	57
3	埋蔵文化財の保護	58
4	鴻臚館跡の整備と調査	59
5	福岡城跡の整備と修復工事	59
6	美術館	60
7	福岡アジア美術館	62
8	博物館	64
9	埋蔵文化財センター	66

文 化

(文化財、文化関係施設)

1 概要

福岡市は、玄界灘を挟んで大陸と接し、古くから対外交流の門戸、拠点として発展してきました。このため市内に残る多数の遺跡の中には、日本の稲作農耕の始まりを示す板付遺跡、大宰府の前身とみられる那津官家跡、古代の迎賓館であった鴻臚館跡、蒙古襲来を防いだ元寇防塁など、ほかには見られない遺跡があります。

また古代以来、外交・貿易により発展を遂げてきた博多には、奈良時代から江戸時代までの都市の遺構が埋もれ、聖福寺、承天寺、櫛田神社、筥崎宮など古代・中世初期にさかのぼる寺社が多くあります。ユネスコ無形文化遺産に登録された博多祇園山笠も鎌倉時代に始まったと伝えられます。

室町時代後期に博多商人の町として栄えた博多は、江戸時代には福岡藩の城下町福岡と双子都市を形成しました。博多・福岡とその周囲の古くからの漁村・農村には、それぞれに特有の民俗が形成され、現在に至っています。

こうした歴史を背景に、市内には多数の文化財（建造物、美術工芸品、無形文化財、民俗文化財、記念物、埋蔵文化財など）が残され、国・県・市の文化財に指定されたものも多くあります。文化財は国民共有の財産として、将来に守り伝えられるべきものであり、その調査、保存、整備を積極的に進めるとともに、文化財保護思想の普及にも努めています。

文化事業としては、博物館が歴史資料、民俗資料、古美術資料、考古資料の収集保管と研究に基づき、展示や講座等の普及活動を進め、美術館は美術文化の振興を図るため、美術品の収集と研究、展示活動などを行い、福岡アジア美術館は、アジアの近現代美術作品の系統的な収集、展示やアジアの美術作家等との交流事業を行っています。

2 文化財とその保護

福岡市周辺は、地理的条件から古代日本における最先進地域として、また、文化の発祥地として位置付けられています。このため、豊富な文化財が残されており、これらの貴重な文化財の保存整備を図っています。さらに、計画的に文化財の保存・活用を進めるため、平成31年3月には、福岡市の文化財の総合的な保存活用の方向性を取りまとめた、『福岡市の文化財の保存活用に関する基本方針』を策定しました。また、同年4月に施行された改正文化財保護法では、市町村の文化財保存活用地域計画作成及び国による認定が位置付けられました。福岡市では令和2年度から計画の作成に着手し、令和4年7月に認定されました。

(1) 文化財保存整備・活用事業

① 金隈遺跡（昭和47年国指定史跡）

福岡平野東側の丘陵にある弥生時代の共同墓地跡で、甕棺墓348基、土壙墓119基などが発見されました。棺内からはゴホウラ製貝輪や石剣などとともに残存状態の良い弥生人骨が多数出土しました。北部九州独自の墓制である甕棺墓の変遷、社会構成、また人種の問題など弥生時代研究に重要な意義を持っています。現在遺跡は整備され、ガイダンス施設「甕棺展示館」では125基の甕棺・土壙墓と人骨が、出土したままの状態で見学できます。

② 野方遺跡（昭和50年国指定史跡）

早良平野西側の山麓にある弥生時代後期から古墳時代にかけての環濠集落と墓地跡。調査された地区だけで93棟の竪穴住居跡が発見されており、邪馬台国時代の社会を考える上で極めて重要な遺跡の一つです。平成3年度に整備を終え、環濠を復元しています。またガイダンス施設「住居跡展示館」では、発掘調査時の状態のままで竪穴住居跡を展示しています。

③ 板付遺跡（昭和51年国指定史跡）

福岡平野の中央に位置する弥生時代初頭の集落・墓地・水田跡。台地上の集落は二重の環濠に囲まれ、その周りの低地では水田が営まれていました。弥生文化形成における農耕村落の一典型を示す極めて貴重な遺跡といえます。平成7年度に整備を終え、環濠・竪穴住居・水田など当時のムラを完全な形で復元しています。ガイダンス施設「板付遺跡弥生館」では当時の生活が体感できる展示を行い、また土器作りなどの公開講座、田植えや稲刈りなどを通して「日本最古の米作りのムラ」の再現に努めています。

④ 吉武高木遺跡（平成5年国指定史跡）

早良平野西側山麓に位置し、弥生時代中期初頭の特定集団墓や中期後半の大型建物の存在などから、弥生時代における「クニ」の成立と展開を知るうえで重要な遺跡として知られています。平成29年4月に国史跡吉武高木遺跡「やよいの風公園」として開園しました。開園後の公園では、「コスモスまつり」等のイベントを開催しています。

⑤ 福岡市赤煉瓦文化館（昭和44年国指定重要文化財）

国指定重要文化財「旧日本生命保険株式会社九州支店」を保存整備し、貸会議室や文化財関連の展示を設けて、市民の文化交流の場として活用しています。令和元

年 8 月には施設のさらなる有効活用を図るためにエンジニアカフェなどを設置しました。

(2) 無形文化財・無形民俗文化財の公開事業

無形文化財や無形民俗文化財の公開事業に補助金の交付を行い助成しています。

① 無形文化財

玄清法流盲僧琵琶、筑前琵琶制作

② 無形民俗文化財

今津人形芝居、飯盛神社のかゆ占、志賀海神社歩射祭、はやま行事、今宿青木獅子舞、元岡獅子舞、元岡祇園ばやし、宇田川原豊年獅子舞、能古島白髭神社おくんち行事、飯盛神社流鏑馬行事、草場盆綱引き、田隈の盆押し・盆綱引き、田島神楽、城の原の盆踊り、志賀島の盆踊り、金隈の鳶の水、今津十一日まつり、今宿上町天満宮鬼すべ行事、唐原の祇園山笠行事、山ほめ祭

(3) 文化財資料調査

① 福岡市内寺社資料調査

市内所在の寺社収蔵文化財の所在把握と保存環境の改善、今後の保存活用を目的として、美術工芸品・典籍・古文書等を対象とする総合調査を実施しています。令和 6 年度は香椎宮及び志賀海神社の収蔵資料の調査を行いました。

(4) 市内の指定文化財 (令和 7 年 4 月 1 日現在)

区分		国指定		県指定		市指定		合計	
		件数	員数	件数	員数	件数	員数	件数	員数
有形文化財	建造物	(0)	9	11	11	16	16	36	36
	絵画	(0)	13	6	27	18	45	37	90
	彫刻	(0)	11	13	17	20	40	44	89
	工芸品	(3)	20	15	22	21	21	56	65
	書跡・典籍・古文書	(1)	12	6	47	32	1,453	50	2,312
	考古資料	(1)	10	16	37	57	1,226	83	4,055
	歴史資料	(0)	0	2	4,806	6	273	8	5,079
	小計	(5)	75	69	3,685	170	3,074	314	11,726
無形文化財		(0)	1	7	11	2	2	10	14
民俗文化財	有形	(0)	0	17	115	14	246	31	361
	無形	(0)	2	7	7	22	22	31	31
	小計	(0)	2	24	122	36	268	62	392
記念物	史跡	(0)	14	5	5	14	20	33	45
	名勝	(0)	0	0	0	2	2	2	2
	天然記念物	(0)	2	3	3	4	865	9	870
	小計	(0)	16	8	8	20	887	44	917
合計		(5)	94	108	5,108	228	4,231	430	13,049

() 内は国宝 (国指定の内数)

(5) 市内の登録文化財 (令和 7 年 4 月 1 日現在)

区分		国登録	市登録	合計
有形文化財	建造物	56	21	77
	絵画	0	0	0
	彫刻	0	0	0
	工芸品	0	0	0
	書跡・典籍・古文書	0	0	0
	考古資料	0	0	0
	歴史資料	0	0	0
	小計	56	21	77
民俗文化財	有形	0	0	0
	無形	0	24	24
	小計	0	24	24
登録記念物	史跡	0	0	0
	名勝	1	0	1
	天然記念物	0	0	0
	小計	1	0	1
合計		57	45	102

3 埋蔵文化財の保護

福岡市は大陸に近く、古来より先進文化受容の窓口として、我が国の歴史上重要な位置を占めてきました。このような歴史的役割を背景に、市域内には約 1,000 か所の遺跡 (埋蔵文化財包蔵地) が存在し、貴重な資料を提供しています。

これらの埋蔵文化財は国民共有の財産であり、将来的にわたって守り伝えていくことが文化財保護の理念であり、行政の責務です。福岡市では以下の事業を行っています。

(1) 各種事業に係る事前審査

公共事業、民間事業に伴う事前の届出・通知を受け付け、事業地内における埋蔵文化財の有無を文化財分布地図、現地踏査、試掘調査等によって確認しています。

令和 6 年度の事前審査件数は公共事業 159 件、民間事業 1,168 件、計 1,327 件と、前年度比で約 3 % 増加しています。窓口、FAX、メールによる包蔵地の照会件数は 7,124 件と、インターネット「福岡市 Web まっぷ」に包蔵地地図を公開したことにより、前年度比で約 48 % 減少しています。試掘件数は公共 5 件、民間 259 件、計 264 件と、前年度比で約 8 % 増加しています。

(2) 緊急発掘調査

土木工事などによってやむを得ず破壊される遺跡については、工事に先立って発掘調査を行い、記録保存の措置を講じています。

令和 6 年度には下記の 25 遺跡で 49 件の緊急発掘調査を行いました。

有田遺跡群（275 次）、飯倉 A 遺跡（5 次）、飯倉 C 遺跡（10 次）、飯倉 D 遺跡（3 次）、飯氏遺跡（14 次）、生の松原遺跡（2 次）、井尻 B 遺跡（61～63 次）、板付遺跡（81・82 次）、香椎 A 遺跡（10 次）、五十川遺跡（29 次）、洲崎台場跡（1 次）、田村遺跡（35 次）、那珂遺跡群（197～200 次）、野芥遺跡（27 次）、博多遺跡群（260～266 次）、箱崎遺跡（131～133 次）、原遺跡（39 次）、比恵遺跡群（161・162 次）、福岡城跡（85 次）、福岡城下町遺跡（9～12 次）、福重稲木遺跡（6 次）、南八幡遺跡（28・29 次）、麦野 A 遺跡（36～39 次）、姪浜遺跡（7・8 次）、吉塚祝町遺跡（5・6 次）

上記の中で特筆すべきものとして、以下のものが挙げられます。

姪浜遺跡第 7 次調査では、弥生時代の掘立柱建物跡・甕棺墓・土壙墓、古墳時代前期の竪穴住居、古墳時代中期の古墳などが発見されました。特に古墳は復元径 20m と 26m の円墳 2 基で、周溝から出土した土器から築造時期は 4 世紀末から 5 世紀と考えられます。姪浜地域の砂丘上の墳墓のあり方や、早良平野の首長墓の出現や展開など古墳時代の社会を考えていく上で貴重な発見となりました。

(3) 資料整理

発掘調査を実施して得られた図面・写真などの各種記録類、出土遺物は整理・図化・編集などの作業を経て、発掘調査報告書として公刊されます。令和 6 年度は巻末の一覧の通り、報告書 27 冊、年報 1 冊を刊行しました。これらの報告書は関係各機関や図書館などに配布し、市民や研究者の閲覧に供しています。整理した記録・資料類は埋蔵文化財センターに収蔵保管し、調査研究や公開普及に活用しています。

(4) 周知と普及活動

調査成果を広く市民に知っていただくため、現地説明会やホームページによる告知などを行っています。

4 鴻臚館跡の整備と調査

(1) 整備

平成 31 年 3 月に、整備の具体的な内容やスケジュールを示す「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」を策定しました。令和 6 年度は、鴻臚館東門等の復元にかかる設計を行いました。

(2) 調査

平成 11～17 年度の第Ⅳ期調査により、東西方向の堀を隔てて南北に鴻臚館の施設が存在したことなどが判

明し、平成 18～25 年度の第Ⅴ期調査では、平和台野球場跡地北側部分において、北館の北側の旧地形などを確認しました。令和元年度～4 年度まで第Ⅵ期調査として、福岡高等裁判所跡地の調査を行いました。

(3) 公開事業

① 鴻臚館跡展示館

展示館では、平安時代の遺構と遺物を調査が終了したままの状態で見学でき、また当時の建物の大きさや様式を実感しながら理解できるように原寸大の建物模型を展示しています。館外は芝生広場として整備し、奈良時代から平安時代の鴻臚館の施設の移り変わりをわかりやすく平面的に表示しています。

② 展示館の入館者

令和 6 年度の入館者は、42,328 人となっています。

③ 鴻臚館広場

鴻臚館広場では「遺構表示」などの暫定的な整備を行っています。これによって鴻臚館跡の建物の大きさを実感してもらうとともに、市民の憩いの場や各種イベントの会場としての利用を促進し、鴻臚館跡への理解と愛着の醸成を図っていきます。

5 福岡城跡の整備と修復工事

(1) 整備

福岡城跡の整備については、平成 17 年度に今後の整備の理念と方向性を定めた「福岡城跡保存整備基本構想」を策定しました。

平成 24 年度から「国史跡福岡城跡整備基本計画」の策定作業に着手し、平成 26 年 6 月に策定しました。令和 6 年度は、潮見櫓を復元し、公開を開始しました。

(2) 調査

令和 6 年度は、福岡城に残る遺構を解明するために、鉄物櫓石垣周辺の発掘調査を行いました。

6 美術館



○所在地	中央区大濠公園 1 番 6 号
○建物構造	鉄筋コンクリート造 2 階建
○延床面積	14,630 m ²
○設置年月日	昭和 54 年 11 月 3 日 平成 31 年 3 月 21 日リニューアルオープン
○主要施設	コレクション展示室(近現代美術室 A・B・C、 古美術企画展示室、松永記念館室、東光院 仏教美術室)、特別展示室、ギャラリー A・B・ C・D・E・F ほか

福岡市美術館は、福岡市の美術文化の振興を図るため、水と緑豊かな市民の憩いの場、大濠公園内に、昭和 54 年 11 月 3 日に開館し、今日まで多くの市民に親しまれています。

(1) 基本性格

- ① 文化生活を豊かにはぐくみ、市民に愛される美術館
- ② 美術センターとして内外の情報サービスを行う美術館
- ③ 歴史と伝統を生かし、新しい未来を育てる美術館

(2) 事業概要

- ① 美術作品その他の美術資料の収集展示
- ② コレクション展示、特別展示、講演会等の開催
- ③ 特別展示室、ギャラリー、ミュージアムホール等の貸与
- ④ 内外の美術情報資料の収集と提供
- ⑤ 美術に関する調査及び研究
- ⑥ 教育普及事業
スクールツアー、ファミリーDAY、夏休みこども美術館、つきなみ講座、その他講座・講演会、博物館実習、ボランティア活動

※ 美術資料収集方針

- 近代の西日本出身者や関係の深い作家の作品
- 近現代美術の流れを展望できる国内外の優れた作品
- 西日本に關係の深い近世以前の作品
- 寄贈された一括コレクションに深いかわりのある作品

- アジア美術(東洋美術)の独自性を示す古代からの(近代以降を除く)優れた作品

(3) 施設内容

- ① コレクション展示室
 - 近現代美術室 A・B・C
20 世紀以降の国内外の近現代美術の流れを展望できるすぐれた作品を系統的に展示
ラファエル・コラン 「海辺にて」
サルヴァドール・ダリ 「ポルト・リガトの聖母」
アンディ・ウォーホル 「エルヴィス」
マルク・シャガール 「空飛ぶアトラージュ」
ジョアン・ミロ 「ゴシック聖堂でオルガン演奏を聞いている踊り子」 ほか
 - 古美術企画展示室
古美術の小企画展や旧福岡藩主黒田家に代々伝承された絵画・工芸をはじめとした寄贈コレクションを中心に、日本・東洋の古美術作品を展示
 - 松永記念館室
小田原の(財)松永記念館から寄贈された故松永安左エ門氏のコレクションで重要文化財を含む茶道具、仏教美術を中心に展示
重要文化財 野々村仁清 「色絵吉野山図茶壺」
重要文化財 尾形乾山 「花籠図」 ほか
 - 東光院仏教美術室
東光院旧蔵の重要文化財「薬師如来立像」および「十二神将像」を中心に、同寺の仏教美術資料を常時展示
- ② 特別展示室
美術館主催の特別企画展のほか、巡回展などを開催
 - ③ ギャラリー A・B・C・D・E・F
市民の創作活動の発表の場として個展やグループ展などを開催
 - ④ ミュージアムホール
講演会や講座のほか、上映会や演劇、コンサートの会場として利用
 - ⑤ アートスタジオ
ワークショップや講演会、ダンス、パフォーマンスなどの場として利用
 - ⑥ レクチャールーム
小規模な講演会や講座、ワークショップに利用
 - ⑦ その他
キッズスペース、カフェ、レストラン、ミュージアムショップ

(4) 入館者の状況

○展覧会

(令和6年度)

展 覧 会 名			会 期 等	観覧者数/人
主催事業	コレクション展示		通 年	241,415
	特別展示	ADAPTATION - KYNE	令和6年4月20日 ～令和6年6月30日	34,846
		キース・ヘリング展 アートをストリートへ	令和6年7月13日 ～令和6年9月8日	36,530
		博多のみほとけ	令和6年10月26日 ～令和6年12月8日	8,453
		第56回福岡市美術展	令和7年3月25日 ～令和7年3月31日	3,705
		計		83,534
	その他の貸会場展覧会		138 件	305,218
合 計			630,167	

○講座等

(令和6年度)

講 座 名		実施日数 /日	参加者延人数 /人
主催事業	ファミリーDAY	2	1,710
	つきなみ講座	12	566
	どこでも美術館	27	1,123
	夏休み子ども美術 2024 ワークショップ「わたしのくつをつくってみよう」	2	41
	夏休み子ども美術館 2024 「ツアー for キッズ！」	6	26
	バリアフリーギャラリーツアー	3	18
	やさしい日本語ツアー	2	17
	いきヨウヨウ講座「みる・さわる・つくる彫刻」	1	27
合計		55	3,528

7 福岡アジア美術館



○所在地	福岡市博多区下川端町3番1号 リバレインセンタービル7・8階
○建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造
○延床面積	9,101 m ²
○開館年月日	平成11年3月6日
○主要施設	アジアギャラリー、企画ギャラリー、 交流ギャラリー、交流スタジオ、 あじびホール、アートカフェ、エントラ ンス壁画、図書閲覧室等

アジア美術の独自の創造を目指し、アジア近現代美術を通じて人々が集い、互いに理解し、創造、発信する、アジア美術の国際的な交流の場として開館しました。

(1) 基本性格

世界的に類をみないアジア近現代美術作品のコレクションを生かした展示のみならず、日常的なアジアとの交流、調査研究活動を積極的に展開します。また、アジアの美術作家や研究者等と日本・福岡の美術作家、研究者、市民が互いに創り、学びあうことにより、新たな創造と相互理解を促す機会を提供します。

(2) 事業概要

① 美術交流

アジアの美術作家や研究者を招へいし、市民との共同創作、研究、ワークショップ、講座等を行う美術交流事業。

令和6年度は、3期9組の美術作家（マハブブ・ジョキオ／パキスタン、レガ・アユンディア・プトゥリ／インドネシア、エコ・ヌグロホ／インドネシア、安田葉／神奈川、浦川大志／福岡、上村卓大／福岡、ブルーノ・ルイズ／メキシコ、杉原信幸×中村綾花／長野、クオン・リョウォン／韓国）を招へいし、作品制作及びワークショップを行いました。

令和7年度は、3期7組の美術作家（モハメド・ファズレ・ラッビ・フォティック／バングラデシュ、ウィリー・

サイウッド／ラオス、馬場さおり／福岡、進藤冬華／北海道、小田原ルーカス／ブラジル、アルピタ・アカンダ／インド、チェン・イエンチー／台湾）を招へいします。

② 展示

ア 企画展示

独自の視点で企画した特別展を開催し、アジアの近現代美術を紹介します。

イ コレクション展示

収蔵品を展示し、アジア近現代美術の流れを示すほか、ジャンル別やテーマ別にアジア美術を紹介します。

③ 収集

美術作品、その他美術資料の収集

方針：アジア美術の独自性を示す優れた作品を収集

対象範囲地域：パキスタン以東、モンゴル以南、
インドネシア以北・以西



ヴォー・アン・カイン（ベトナム）

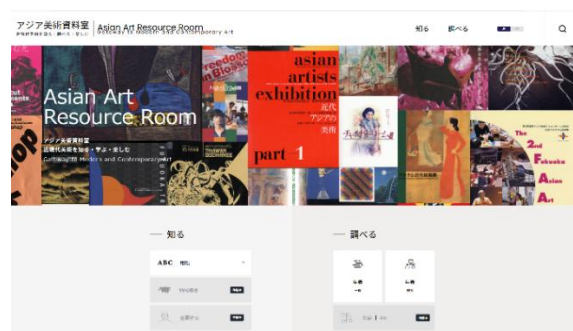
《軍移動診療所 1970年9月》1970/2010年

④ 教育普及

ア 講演会・シンポジウム等の開催

イ 美術教育プログラムの実施

ウ 美術をはじめとするアジアの文化に関する情報の収集と提供



アジアの近現代美術を学ぶウェブサイト
「アジア美術資料室」（日／英）を開設。

エ 令和6年度より、福岡市博物館、福岡市美術館と連携して「対話型アート鑑賞」事業を実施し、小学生を対象とした図工の鑑賞学習を行っています。

(3) 施設内容

① アジアギャラリー

アジア近現代美術の流れを系統的に展示し、また、ジャンルやテーマ別にアジア美術作品を紹介するコレクション展を開催します。

② 企画ギャラリー

アジア美術のほか、幅広い分野の特別企画展を主催・共催します。

③ 交流ギャラリー

アジアの美術作家が福岡滞在中に創作した美術作品の展示や、市民に創作活動の発表の機会を提供します。

④ 交流スタジオ

アジアの美術作家の滞在制作や市民向けワークショップを実施します。

⑤ あじびホール

美術交流事業や展覧会にあわせて、美術教育プログラム、講演会やシンポジウム等を開催します。また、ミニコンサートや小演劇、上映会など、文化・芸術活動を楽しむ機会を提供します。

⑥ アートカフェ

アジアの美術、文化、歴史などの書籍約10,000冊が置かれており、食事や休憩とともに自由に読書が楽しめます。

⑦ エントランス壁画

1階エントランスでは、中国の人気アーティストのブー・ホアによる約4m×11mの壁画が来館者を迎えます。

⑧ その他

図書閲覧室、ミュージアムショップなどがあります。

(4) 特別企画展

① おいでよ！夏の美術館 vol.2 「オバケ？」展

会期 令和7年7月10日～令和7年8月31日

② ベトナム、記憶の風景

会期 令和7年9月13日～令和7年11月9日

(5) 入館者の状況

(令和6年度)

展 覧 会 名			会 期	観覧者数
主 催 事 業	コレクション展		通 年	80,706人
	特 別 企 画 展	おいでよ！夏の美術館vol.1 エルマ一のぼうけん展	R 6. 7. 16 ～R 6. 8. 25	25,773人
	その他の貸会場展覧会		76件	122,339人
	あじびホール利用		90件	6,925人
ア ー ト カ フ ェ 来 訪 者				144,563人
施 設 利 用 者 合 計				380,306人

8 博物館



○所在地	早良区百道浜三丁目1番1号
○敷地面積	50,648.80 m ²
○延床面積	16,920.62 m ²
○建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造3階建
○開館	平成2年10月18日
○種別	歴史民俗博物館
○主要施設	常設展示室、企画展示室、 特別展示室、講堂、 講座室、体験学習室、授乳室、多目的研 修室、オープンテラス、読書室

福岡市博物館は、福岡が古くから大陸との交流拠点として重要な役割を果たしてきたことを踏まえ、対外交流の歴史を基本テーマに、郷土の貴重な文化遺産を保存、継承するとともに、新たな市民文化の創造に寄与することを目的としています。

(1) 基本性格

- ① 先人の残した文化遺産を保存、継承し、東アジアにおける福岡の歴史と民俗を学ぶ博物館
- ② 文化遺産を通して市民とのコミュニケーションをすすめる、新しい市民文化を育む博物館
- ③ 調査研究機能とともに高度の情報サービス機能を持ち、市民の生涯学習の場としての博物館

(2) 事業内容

- ① 博物館資料の収集と展示
- ② 博物館資料に関する調査研究
- ③ 博物館資料に関する企画展、講演会等の開催
- ④ 博物館資料に関する情報の収集と提供
- ⑤ その他必要な事業

(3) 博物館資料の収集

博物館の諸事業を効果的に行うため、昭和58年度から福岡の歴史と民俗に係る深い資料の収集を積極的に行ってきました。令和7年3月末現在の収集資料は、累計で207,044件になります。

(4) 施設内容

① 常設展示室

平成25年11月3日、「FUKUOKA アジアに生きた都市と人びと」をテーマにリニューアルオープン。福岡の歴史や人びとのくらしを独自の時代区分で紹介。また、すべての人にやさしく使い勝手の良い施設を目指し「ユニバーサル・ミュージアム」の理念を掲げ、体感型の展示方法も取り入れています。

② 企画展示室

4つの展示室に分かれており、博物館の収蔵品を中心に、歴史、美術工芸、考古、民俗の各部門の展示を定期的に行い、主に福岡市内及び近郊の様々な資料や文化財を、テーマを決めて紹介しています。

③ 特別展示室

博物館主催の自主企画展や、各種実行委員会等の主催による特別展を順次開催します。

④ 体験学習室「みたいけんラボ」

アジアの遊戯をテーマとして、アジア各国の芸能・玩具資料に直接触れることにより、アジアの人々の生活や文化を疑似体験できるようにしています。

⑤ 講堂・講座室

博物館や各種団体等の主催により、歴史・民俗に関する講演会、各種講座を開催します。



国宝 金印「漢委奴国王」

(5) 特別展示室

- ・民藝 MINGEI—美は暮らしのなかにある
会期 令和7年2月8日～令和7年4月6日
- ・アニメ「鬼滅の刃」 柱展 —そして無限城へ—
会期 令和7年4月24日～令和7年6月22日
- ・芥見下々『呪術廻戦』展
会期 令和7年7月12日～令和7年9月28日
- ・ディズニー・アニメーション・イマーシブ・エクスペリエンス
会期 令和7年10月13日～令和8年2月1日
- ・魔法の歴史スコープ～見つめてみよう福岡の今～
会期 令和8年2月21日～令和8年4月12日

(6) 企画展示室

室	展 覧 会 名 称	会 期
1	筑前の刀工 信国	4/15～6/15
2	筑前の伝説ことはじめ	4/15～6/15
3	土の中のアクアリウム	4/15～11/9
	勾玉展	2/3～5/6
4	福岡の玉せせり	4/15～6/29
	博多祇園山笠展 24	7/1～9/7
	アジアの激動と 福岡ゆかりの人のびと 2	9/9～11/9
	手仕事の美と技 3ー博多織ー	2/3～4/12

1 ・ 2	戦争とわたしたちの暮らし 34	6/17～9/15
1 ・ 2	松永冠山と旧友泉亭杉戸絵	9/17～11/9
1 ・ 2	花爛漫の江戸時代	2/3～4/19
1 ・ 4	第 37 回新収蔵品展 ふくおかの歴史と暮らし	11/12～2/1

(7) 講演会・講座等

特別展「魔法の歴史スコープ」関連

5月17日 ワークショップ みんなで考えよう

特別展「魔法の歴史スコープ」

企画展『「宮崎宮玉せせり行事」福岡市無形民俗文化財
指定記念 福岡の玉せせり』関連事業

6月1日 講演会「不思議の玉の物語」

総館長の歴史講座「楽史の集い」

5月24日 花押

7月26日 花押パート2

(8) 子どもを対象とした事業

みんなのミュージアム

8月5日、6日（博物館でアクアリウム！）

12月21日（博物館リアル謎解き体験 ～昔の暮らし
編～）

3月22日（金印の使われ方を知ろう！）

(9) 学習事業

① 博物館体験学習事業

市立中学校、特別支援学校（中等部）の生徒、市立小学校の児童を対象に博物館で体験学習を実施します。

小・中学校・特別支援学校実施予定数 9 回（363 人）

② 出前学習事業

市立小学校、特別支援学校（小学部）の児童を対象に、博物館から講師を派遣し、出前学習を実施します。

4メニュー 実施予定数 101 回（9,538 人）

③ 対話型鑑賞

福岡市美術館、福岡アジア美術館と連携し、市内の小学校・特別支援学校（小学部）が校外学習で利用できる「対話型鑑賞」事業を実施します。

実施予定学校数 35 回（1,750 人）

(10) 福岡市史の編さん事業

市民の郷土に対する誇りと愛着を醸成するとともに、重要な歴史資（史）料を市民の財産として後世に継承するため、総合的で体系化された「福岡市史」を編さんし、福岡市発展の指針とします。

① 『新修 福岡市史』の制作

② 編集委員会・専門部会等の開催、資(史)料調査・収集整理

③ 講演会・研究会の開催（年1～2回）

④ 広報誌（年1～2回）、研究誌（年1回）の発行

(11) 入館者の状況

（令和6年度）

展 覧 会 名		観覧者数/人
常 設 展・企 画 展		121,412
特 別 展	藤城清治 100 歳 美しい地球 生きるよこび 未来へ展	45,567
	大哺乳類展-わけてつなげて大行進	64,724
	大灯籠絵	7,829
	九州真宗の源流	11,650
	民藝 MINGEIー 美は暮らしのなかにある	13,138
特 別 展 計		142,908
合 計		264,320

※「民藝 MINGEIー 美は暮らしのなかにある」は、令和7年3月末までの観覧者数（令和7年4月6日まで開催）

9 埋蔵文化財センター



○所在地	博多区井相田二丁目1番94号
○建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造3階建(一部2階)
○延床面積	10,713 m ²
○設置年月日	昭和57年2月22日
○主要施設	展示室(第1・第2・第3)、研修室、図書室、資料閲覧室、収蔵庫・特別収蔵庫・記録類収蔵庫、木器処理室・金属器処理室・光学機器室、資料整理室、月隈収蔵庫(博多区月隈一丁目13番17号)

福岡市埋蔵文化財センターは、市域から出土した遺物や調査記録類を一括収蔵・保管し、また科学的な保存処理を施すとともに、市民が郷土の歴史をより身近なものとして学ぶために、これらを広く公開・展示し、市民文化の向上に資するために設置されました。

(1) 展示施設

令和6年度から令和10年度にかけて、老朽化した建物内部の大規模改修工事を実施する計画です。工事に伴い、令和6年4月から展示室を閉鎖しています。

(2) 保存処理と調査研究

① 保存処理

令和6年度は木製品118点、金属製品やガラス製品など243点について科学的保存処理を行いました。

② 調査研究

調査研究成果を年報(第43号)にまとめ、650部を発刊、公共団体や研究機関へ寄贈しました。

(3) 普及活動

郷土の歴史を遺跡や遺物を通して学び、文化財保護思想の育成を目的に下記の講座・展示を開催しました。

① 考古学講座・発掘調査速報講座

ア 6年度の考古学講座は「三種の神器と北部九州」を年間テーマとして3回開催し、計623人が受講しました。

	講座名	開催日	受講者数
1	青銅製武器の行方ー三種の神器への連なりを問うー	R 6. 6. 15	200
2	「定形勾玉」の展開と北部九州	R 6. 9. 28	211
3	北部九州の銅鏡と弥生社会	R 6. 12. 7	212

イ 令和6年度における市内の発掘調査の報告である発掘調査速報講座「発掘調査総まくりー令和6年度の調査概要ー」は計103人が受講しました。

	講座名	開催日	受講者数
1	発掘調査総まくりー令和6年度の調査概要ー	R 7. 3. 15	103

② 館外展示

当センターでは、出土品の活用の一環として、地域学校等の身近なところで出土品と接する機会を積極的に設け、市民の文化財保護に対する理解が深まるように努めています。

(4) 教育活動

① 出前授業

出前授業は福岡市内から出土した豊富な歴史遺産を収蔵庫に眠らせたまま後世に伝えるのではなく、新たな資料活用方法として出土品を学校へ持ち込み、文化財専門職(センター職員)が授業を行うものです。

「ふるさと福岡」を誇りに思う子供たちを育てることを目的に、授業は①校区内遺跡からの出土品に直接触れて歴史を身近に感じること、②大昔の生活体験を行い歴史認識を深めること、の2本の柱から構成されています。

令和6年度は、5月から12月にかけて、27校の小学校で計67回の授業を行い、1,796人が学習体験を行いました。

・令和6年度 出前授業主要メニュー

授業メニュー	授業内容
出土品にさわろう！	本物の出土品に実際に触れて、当時の使い方を学ぶ
火起こしに挑戦！	舞い切り式の火起こしを体験し、火と人間の歴史を学ぶ

・令和6年度 出前授業実施状況

	学校数	授業回数	受講生徒数
市立小学校	26校	64回	1,777人
市立中学校	0校	0回	0人
特別支援学校(小学部)	1校	3回	19人
特別支援学校(中学部)	0校	0回	0人
合 計	27校	67回	1,796人



(出前授業風景)

(5) 資料の収蔵と活用

市域内の発掘調査による出土品や調査記録類を一定の収蔵方法によって整理・収蔵し、また必要なものについては科学的処理を行い、調査研究や貸出など各種の利用に役立てています。

なお、令和6年度は大規模改修工事に伴い、一部業務を制限しました。

① 収蔵

令和6年度は、大原D遺跡など99件の調査等の収蔵を行いました。その内訳は、出土遺物（コンテナ128箱）と記録類（写真2,972点、図面293枚等）等を本収蔵しました。これにより延べ2,302遺跡（調査）分について検索、公開できるようになりました。

② 資料の利用・活用

博物館などの展示資料や出版物の掲載資料、また小学校の補助教材として考古資料や写真の貸出し、さらには資料の撮影、閲覧申請への対応なども行っています。令和6年度は館内の大規模改修工事に伴い利用を一部制限しており、資料利用・活用は147件、3,539点でした。

③ 図書の整備と利用

考古学関連書籍や全国の遺跡調査報告書を収蔵している図書室の蔵書数は令和6年度末で112,444冊を数えます。工事に伴い、令和6年6月から図書館を閉鎖しており、6月までの一般者の利用は16件でした。

(6) 入館者の状況

(令和6年度)

区 分	個 人 (人)	団 体 (人)	合 計 (人)
学 生	2	0	2
一 般	1,188	0	1,188
合 計	1,190	0	1,190